

令和7年度関東高等学校バドミントン選手権大会茨城県予選会（団体戦） 競技上の注意事項

- ① 試合順序は、複1・単1・複2で行い、選手は単1・複1・2を兼ねることはできません。1対抗戦2マッチ先取で行います。

試合番号47（男子）、43（女子）まで15点の得点制限があります。14点オール以後は2点先取、上限21点です。以降は、得点制限はありません。

20点オール以後は2点先取、上限30点です。

すべての試合において次の試合まで15分を空けます。

ベンチは主審からコートをみてトーナメント番号の若番が右側、後番が左側に座ってください。

- ② 各試合のシャトルは「数個」、本部からの支給とします。超過分については各校の相対で補給をお願いします。シャトルの温度番号は「3番」です。

- ③ 試合（マッチ）中のシャトルの交換、水分補給、汗ふきなどは必ず主審の許可を得てください。なお、氷嚢の使用は、インターバル中のみとします。容器は倒れてもこぼれないフタ付ボトルを使用し、自分のバックに入れてください。ベンチでのタオル、水分補給は認めないため、必ず主審横にバックを置いてください。

- ④ 各コートの1試合目は本部からの指定で行います。本部のコールをよく確認してください。2試合目以降からは前試合の敗者校が主審（1名）、線審（2名）、サービスジャッジ兼得点表示（1名）の計4名を出して実施してください。
ルールのおぼつかない1年生が審判をすることのないようにお願いします。

サービスジャッジは、ポストにコート面から1.15mのところにマークがあります。そのマークを基準にコート面から1.15mのところに水平面をイメージし、判定してください。

スコアボードは本部から運ばれますので敗者校はそのままコートに残り、搬入を待ってください。
ベスト16(2日目)に残った学校は、準々決勝以降・順位決定戦と審判があります。
最後まで帰らずに待機してください。

- ⑤ 線審はシグナルをきちんと出してください。
必ず大会出場者もしくは、ルール理解者が審判を行うようにしてください。
得点板のマッチカウントは選手にあわせて表示します。ベンチ側ではありません。
- ⑥ 声援や応援歌の応援は禁止です。着席の上、拍手・声掛けを行って下さい。また、ベンチ付近での立ち上がったの声援は行わないでください。
- ⑦ インターバル中、競技区域付近でのアドバイスは、監督・コーチなど同時に2名までです。

- ⑧ 本大会は、令和 7 年度日本バドミントン協会競技規則に準じて進行します。
サービスのフォルトはゲーム開始当初からとってください。
ゲーム内、**11点（得点制限中は8点）**の際の**60秒**のインターバルを主審は必ずコールし、プレイヤーも確認してください。
ゲーム間は**120秒**です。両者とも残り**20秒**でコートインをお願いします。
ストップウォッチを必ず使用してください。遅れた場合はフォルトとなります。
- ⑨ 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認められません。もし判定に対し疑問がある場合には、次のサービスが為される前に**「質問」**をすることができます。ここで質問ができる者とは、学校対抗では当該選手と監督に限ります。必要な場合はレフェリーを呼んでください。
- ⑩ 以下のルール改正に伴い、スピンサーブはフォルトとなります。
バドミントン競技規則 第9条 サービス
第1項（5）サーバーは、スピン（回転）を加えずにシャトルを放し、ラケットで最初にシャトルの台を打つものとする。